

【地域教育実践報告】

薬局管理栄養士の生涯学習推進と支援

——薬局管理栄養士研究会と医療栄養学科の連携——

堀 由美子*・古屋 牧子*・松本 明世**・真野 博**・清水 純**・君羅 好史***・内田 博之**

キーワード：薬局管理栄養士、薬局管理栄養士研究会、生涯学習、多職種連携、管理栄養士養成課程

1. はじめに

超少子高齢社会の到来により、地域における医療・介護需要が高まっている。厚生労働省は、増大する在宅療養者・居宅要介護者に対する食事・栄養支援を行う人材の確保と、関係機関や関係職種と連携した先駆的な栄養ケア活動を促進し整備を進めている¹⁾。これには、管理栄養士の参画は必須であり、栄養ケアサービスの継続的供給が実現する環境の構築・整備が喫緊の課題と考えられる。このような“地域”の大規模な栄養ケアサービスの需要に対し、健康支援拠点として“地域”に点在する保険薬局（以下、薬局）やドラッグストア（以下、DgS）に所属する管理栄養士（以下、薬局管理栄養士）の活動は、ますます緊要性を増すことが予想される。薬局管理栄養士は、地域住民の健康を支える有機的な栄養ケア活動を実践するために、専門職としての知識や技術の維持・向上が必要とされ、継続した自己研鑽と、薬剤師ならびに多職種との連携・補完強化を図ることが求められている。

2. 薬局管理栄養士研究会の概要

2.1 薬局管理栄養士研究会の目的と沿革

薬局管理栄養士研究会は「薬局・DgSに勤務する全国の管理栄養士が情報交換と相互の連携を図ること」を目的に形成・開催されている。発足は2006年、セルフメディケーションが盛んに謳われ、管理栄養士が先進的な薬局グループによって導入されはじめた頃である。

城西大学薬学部医療栄養学科を中心に、薬学部の教育を支援している組織である薬学協力会がバックアップ役（後援）となり、2006年11月に城西大学・城西国際大学東京紀尾井町キャンパス1号棟で第1回目の集会在実施されたことに始まる。毎年1回の開催を継続し、2021年11月現在、第16回目を数えた。初回は24団体から約60名の薬局管理栄養士が参加したとの記録があるが、近年は薬局管理栄養士に限らず、薬局・DgSの経営者や店舗責任者である薬剤師、管理栄養士養成校の教員や薬局管理栄養士を目指す学生、食品企業からの参加希望者も増え、第13回（2018年）からは参加定員を250名に増員し、東京紀尾井町キャンパス3号棟の大講義室を会場とするなど拡張している。第15・16回（2020・2021年）は新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、集合型開催を取り止め、城西大

* 城西大学薬学部医療栄養学科准教授

** 城西大学薬学部医療栄養学科教授

*** 城西大学薬学部医療栄養学科助教

学坂戸キャンパスを配信会場としたオンライン開催となったが、参加者数は衰えることなく、より広範な地域やフィールドからの参加がみられるようになった。

毎年の研究会の開催日時は、概ね11月または12月の土曜日、午後2時～5時である。プログラムは専門性・話題性に富んだ教育講演（写真1、表1）や、薬局管理栄養士の実践活動の成果を報告する口頭発表やポスター発表（写真2）、業務や事業についての情報提供や意見交換を意図したグループワークなどで構成されており、第4回（2009年）以降は、社会トレンドを見据えて当該回の象徴となる開催テーマを設定している。第15・16回（2020・2021年）は、コロナ禍でのニーズに対応すべく、教育から情報共有に視点を移し、情報提供や少人数制のグループディスカッションに多くの時間が配分された。

また、ポスター発表の時間帯には、同じフロア内で軽食をとまなう懇親会を同時進行することによって、コミュニケーションの活性化が図られている（写真2）。第13回（2018年）からは研究会終了後に有志による別会場での懇親会が企画され、より活発な交流が展開されている。さらに、第14回には新たな試みとして会場内に食品企業による展示ブースが導入され、企業との接点を持つ機会ともなった。



写真1 教育講演の様子（第14回）

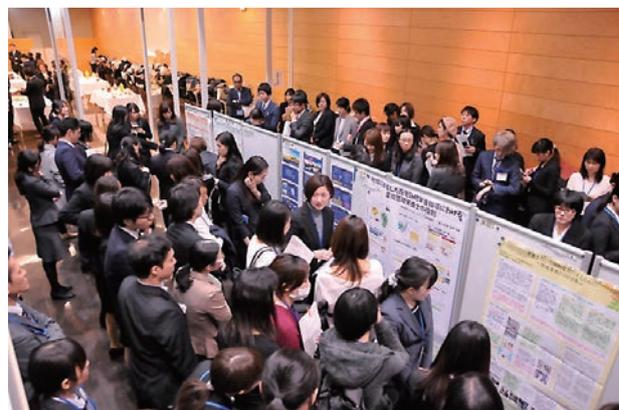


写真2 ポスター発表・懇親会の様子（第11回）

なお、第15・16回（2020・2021年）はWeb会議ツール（Zoom）を用いたオンライン開催を選択したため、対面での議論や交流の場を実現できないデメリットもあった。しかし一方では、時間をかけての移動とこれに伴う費用が不要であることや、職場や自宅からの参加も可能であり、若年層や子育て世代にとっては大きなメリットとなった。オンライン開催は、運営側にも参加者においても低コストでストレスも少なく実施可能であったことから、新型コロナウイルス感染症の収束後も開催形式の一つとして選択肢に加えることが検討されるだろう。

近年では、当研究会の世話人会^{※1}が発足し、研究会開催に向けて、薬局管理栄養士による主体的な企画立案・運営が進められており、本研究会の意義（目的）についても「専門職種・業種の枠組みにとらわれず、参加者の連携と親睦を促進すること、薬局管理栄養士の活動支援や発展および育成に

※1 薬局管理栄養士研究会 世話人；RD 管理栄養士、Ph 薬剤師：小口淳美（RD、株式会社フォーラル）、田代陽子（RD、総合メディカル株式会社）、内山貴雄（RD、株式会社杏林堂薬局）、藤田智子（RD、株式会社メディカルシステムネットワーク）、宮代由佳（RD、クオール株式会社）、川戸麻紀（RD、薬樹株式会社）、松本直子（RD、株式会社アベックス）、奥寄沙恵（RD、株式会社なの花中部）、柳岡祐治（Ph、スギメディカル株式会社）

必要な情報収集・発信を行い、地域の栄養ケアを推進し、住民のQOL向上に寄与すること」と、より具体的で発展した内容への更新が検討されている。

表1には、第1回から第16回までの薬局管理栄養士研究会の変遷として、開催テーマ、教育講演、演者等について開催概要をまとめた。

2.2 薬局管理栄養士研究会と医療栄養学科の連携

薬学部医療栄養学科では、薬局管理栄養士研究会が発足して以来、長年、継続して研究会の開催に携わり、薬局管理栄養士が、管理栄養士の職務にとらわれることなく、関連職種や関連機関と連携強化されることを主眼に置いて支援体制を築いている。加えて、当研究会が薬局管理栄養士の生涯学習の場となり、OFF-JT^{※2}として機能するために、専門的知識や技術情報を提供し、参加者同士の意見交換を通して視野や考え方を広げ、新たな動機づけになるよう志向している。

これまで、毎年の薬局管理栄養士研究会は、当会会長（初代会長：太田由美氏、株式会社マツモトキヨシ；現会長：小口淳美氏、株式会社フォーラル）と医療栄養学科との連携の上で円滑に実施されてきた。本学科に事務局^{※3}が設置され、支援部署・教員^{※4}とともに当該回の開催テーマの企画から始まり、教育講演の演題と講師の選定、関係部署や発表者との打合せ・準備、案内・広報等を進め、研究会当日の運営^{※5}、総括といった研究会開催に関わる業務全般を担ってきた。時には、薬学部3学科の教員が教育講演を担当し、薬局管理栄養士の業務遂行に役立つ知識や技術情報を提供している（表1）。いずれは薬局管理栄養士による自主的な運用へとシフトすることを視野に入れ、コミュニティのエンパワメントを推進しつつ、その基盤と体制を整備してきた。

第12回（2017年）からは、先述した世話人会が結成されたことに伴い、事務局は現会長が所属する企業内に移転され、上述した研究会業務に関わる大部分を世話人会が主導し、窓口となって、運用されている。さらに、世話人会の発足により、毎年の薬局管理栄養士研究会の開催のみならず、薬局管理栄養士の栄養ケア活動に関する調査・研究、広報活動、関連学会・協会・団体との連携事業を進めるなど、研究会の活動範囲、内容も拡充している。

このように近年では、世話人会を中心とした、薬局管理栄養士による自立した運用体制が構築されつつあるが、我々はこれまでと同様のスタンスを保ち、専門的助言を加えながら後方支援としての役割を継続している。先の第66回日本栄養改善学会学術総会（2019年9月、富山）における研究自由集会「地域における薬局管理栄養士の役割と今後の展望について考える」の共同開催や、2021年には薬

※2 Off-JT (Off the Job Training) : 職場外研修のことで、集合研修の形態をとることが多い。学会発表や専門研修などが含まれる。OJT (On the Job Training : 業務の遂行を通して行うもので、上司や先輩からの指導による職場内研修) とともに現任教育の手段とされる。

※3 薬局管理栄養士研究会 事務局 : 第1～4回担当 岡崎真理・岩瀬靖彦、第5～6回担当 角田伸代、第7～14回担当 古屋牧子、第15～16回担当 小口淳美

※4 薬局管理栄養士研究会 支援部署・教員 : 東京紀尾井町キャンパス総務課、薬学部、医療栄養学科主任、医療栄養学科教員

※5 研究会当日の運営 : 医療栄養学科教員、医療栄養学科学生・大学院生、卒業生有志による運営補助。学生は現職の薬局管理栄養士と関わることで、有益な情報収集とキャリアプラン形成の機会にもなっている。

薬局管理栄養士の生涯学習推進と支援

表1 第1回～第16回（2006～2021年）薬局管理栄養士研究会の開催概要

所属・肩書き等は当時のもの。敬称略

回	開催年	開催地	開催テーマ	教育講演	演者	特記事項	
1	2006 (平成18)	城西大学 東京 紀尾井町 キャンパス 1号棟	-	健康食品の最新情報と動向	和田 政裕（城西大学薬学部/教授）	定員100名 初代会長：太田 由美	
				薬局管理栄養士の現状と問題点・将来展望	五十嵐 由起子（株式会社望星薬局/管理栄養士） 松田 千咲（株式会社あさひ調剤/管理栄養士）		
2	2007		-	調剤薬局・ドラッグストアの管理栄養士の現状と問題点・将来展望	蜂谷 愛（株式会社ファーマホールディング/管理栄養士） 太田 由美（株式会社マツモトキヨシ/管理栄養士） 小島 しのぶ（株式会社フォーラル/管理栄養士）		
3	2008		-	※ポスター発表のみ			
4	2009		セルフメディケーションのための地域連携	医療は多角的な変革の真っ最中 職場を超えた相互連携が、セルフエガシーセルフメディケーション 自己予防・治療 効果を更に高める	松浦 成志（筑波大学医学部附属病院）		
				東邦薬品の管理栄養士出向業務 医薬品卸だからできること	清水 綾香（東邦薬品株式会社/管理栄養士）		
				地域保険薬局における特定保健指導への取り組み	山口 未央（株式会社望星薬局/管理栄養士）		
5	2010		調剤薬局・ドラッグストアにおける多職種との連携	保険薬局において管理栄養士に期待すること	恩地 ゆかり（株式会社福聚/代表取締役社長）		
				ドラッグストアにおいて管理栄養士が出来ることは	太田 由美（株式会社マツモトキヨシホールディングス/管理栄養士）		
				保険調剤薬局における管理栄養士の取り組み	関澤 知里（薬樹株式会社 営業企画本部）		
6	2011		城西大学 東京 紀尾井町 キャンパス 1号棟	薬学から見た調剤薬局・ドラッグストアの役割	ドラッグストアの機能と管理栄養士に期待すること	師岡 伸生（株式会社住商ドラッグストアーズ/代表取締役社長）	
					薬学部の現状と将来 一生活者を衛る人材の育成	杉林 堅次（城西大学/薬学部長）	
7	2012			調剤薬局・ドラッグストアでの多職種間連携	調剤薬局における管理栄養士の今後の展望	前川 和廣（株式会社フォーラル/常務取締役）	
					連携協働のスキルでイノベーションを起こそう	大塚 眞理子（埼玉県立大学保健医療福祉学部/教授）	
8	2013			介護分野における管理栄養士と薬剤師の連携	栄養士の新たな使命～在宅医療・高齢者施設における薬剤師との連携～	澤田 康裕（ウエルシア関東株式会社 調剤介護事業本部/部長）	
					在宅医療で管理栄養士に期待すること	大嶋 繁（城西大学薬学部/准教授）	
9	2014	地域の健康・栄養支援における薬局管理栄養士の役割		健康食品の機能性表示を考えるー食品の新たな機能性表示制度の光と影	和田 政裕（城西大学薬学部/教授）		
				調剤薬局・ドラッグストアの管理栄養士の現状と今後の展望	仲野 智子（薬樹株式会社/管理栄養士） 小口 淳美（株式会社フォーラル/管理栄養士）		
10	2015	地域の健康づくり支援における薬局と管理栄養士の関わり		保険薬局・ドラッグストアにおける管理栄養士活動の現状と問題点・将来的展望	吉村 磯孝（株式会社ファーマ総研/代表取締役社長）		
11	2016	地域の健康支援拠点としての薬局における管理栄養士の目標		処方箋から得られる患者さんの病気についてのヒント～実際の処方例で考えてみよう～	加園 恵三（城西大学薬学部/教授）	第2代会長：小口 淳美	
12	2017	地域の健康づくりを担う薬局管理栄養士のこれから		コミュニティーにおける多職種連携の意味	白幡 晶（城西大学/学長・薬学部/教授）	世話人による運営開始	
				薬局等で勤務する管理栄養士の専門性について考えてみよう	池田 康幸（三芳町健康増進課保健センター所長/管理栄養士）		
13	2018	城西大学 東京 紀尾井町 キャンパス 3号棟		コラーゲンペプチドの機能性研究とその活用	真野 博（城西大学薬学部医療栄養学科 学科主任/教授）	定員250名に増員	
				目指せ！健康寿命の延伸 ～薬局管理栄養士の役割と地域・医療連携	嘉悦 ゆり（薬樹株式会社 薬樹薬局 加/管理栄養士）		
				薬局管理栄養士の役割と地域・医療連携の取り組み（現状と課題）	内山 貴雄（株式会社杏林堂薬局/管理栄養士） 藤田 智子（株式会社メディカルシステムネットワーク/管理栄養士）		
14	2019 (令和元)	地域包括ケアシステムにおける薬局管理栄養士の活動を考える		歯科医療の今と管理栄養士との連携	戸原 玄（東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科/准教授）	食品企業展示	
			在宅医療における薬局管理栄養士への期待と課題	川口 美喜子（大妻女子大学家政学食物学科/教授）			
15	2020	オンライン	新しい生活様式の中で薬局管理栄養士に求められていること・できること	情報共有：コロナ禍で薬局・ドラッグストアが行う取り組み	藤田 智子（株式会社メディカルシステムネットワーク/管理栄養士）	学生の参加受入 オンラインSGD	
16	2021	オンライン	薬局管理栄養士の真価 ～どのように価値創出すべきか～	情報共有：特定保健指導の取り組み	菅原 正勝（株式会社スギ薬局 ウェルネス統括部/部長）	オンラインSGD オンライン懇親会	

局管理栄養士研究会の協力による調査報告「保険薬局・ドラッグストアに勤務する管理栄養士・栄養士の配置状況と就業の実態」²⁾を公表することができたのは特筆すべき成果である。

3. 薬局管理栄養士の現状と今後

2025年度を目処にした地域包括ケアシステムの構築³⁾、健康日本21（第2次）⁴⁾や日本栄養士会による栄養ケア・ステーション事業⁵⁾、2015年に開始した健康サポート薬局制度⁶⁾、2019年の地域・職域連携推進ガイドライン⁷⁾など、いずれにおいても地域住民の健康・栄養需要に対応するリソースとして“管理栄養士”が挙げられ、その活動場所として保健所や医療機関とともに“薬局”が加えられている。地域密着型の医療提供体制への整備が進み、薬局・薬剤師による地域医療や在宅医療への取り組みも活発化してきた。このような時勢に連動して、薬局管理栄養士の配置が首都圏や大都市圏に限らず、地方まで波及し活発化しているのは自明のことである。

薬局管理栄養士は、薬局やDgSを活動拠点とし、地域住民の日常生活の場で食・栄養・健康に関する専門的なアドバイスやサポートを提供できる専門職として特徴づけられる。

我々が実施した薬局管理栄養士の就業実態の調査結果²⁾から薬局管理栄養士の動向を紹介すると、薬局管理栄養士の配置は北海道から九州各地にまで及ぶこと、保険調剤薬局を主事業とする企業での採用が多く、大型チェーン薬局では数百人規模の採用もみられるが、主流は1人または少数配置で、比較的若い世代の就業経験の少ない管理栄養士で構成されていた。主な業務は、薬局運営に欠かせない、薬局事務、在庫管理・発注、調剤補助等を担いながら、専門業務として、栄養相談（無料／有料）やセミナー・イベントを行うほか、訪問栄養指導、特定保健指導、総合事業、商品開発などを担当している。その他、栄養教室・料理教室の開催、料理レシピや栄養新聞・栄養だよりといった情報誌の作成と提供、薬剤師向けの勉強会や教育資料作成などのほか、近隣のクリニックや保育所との連携や栄養ケア・ステーション事業を実施するなど、店舗内に留まらず、地域で様々な栄養ケア活動を行っていた。

しかしながら、薬局管理栄養士には業務やスキルの明確な評価（対価）としての診療報酬や介護報酬が導入されていないのが現状である。管理栄養士による利益創出は薬局管理栄養士の就業上の重要課題であるが、「栄養士業務に専念できない」、「栄養士業務の時間がない」、「マンパワー不足」という意見も多く、実務経験不足や同職種からの支援や相談体制が充実していない環境も少なくなかった。これらと関連して、「教えてくれる所・人がいなくて不安」、「身近に勉強できる機会と時間があるとよい」、「日常業務と並行して教育や研修を行うのは難しい」、「病態別の食事療法のセミナーなどを開催してほしい」など、セミナーや勉強会の教育機会を求める声も多かった。

このような現状から、企業枠を超えた情報交換や支援体制の推進、薬局管理栄養士研究会をはじめ職場内外の研修会や教育システムを構築・整備することの重要性と必要性が改めて浮き彫りになった。一方で、薬局管理栄養士研究会の参加者アンケートの結果では、本研究会への反応は常に好感度であり、参加者のニーズを満たしているものと推察できる。その上で、本研究会には「情報収集・情報交換」、「知識・技能の向上」、「他団体との連携」への期待値も高く⁸⁾、薬局管理栄養士において唯一無二のOff-JTとして重要な位置づけになっていることが窺える。

2020年の日本学術会議健康・生活科学委員会による提言「健康栄養教育を担う管理栄養士の役割」においても、地域の栄養・健康教育を管理栄養士が担うことへの期待とともに、その役割を務めるために要する資質の担保・向上には、リカレント教育などの継続的教育が必要であると強調されている⁹⁾。近年の薬局管理栄養士研究会では、管理栄養士養成課程の学生参加を受け入れ、次世代を交えた教育環境が形成され、将来、地域の栄養ケアを担う人材育成の場としても機能しつつある。引き続き、薬局管理栄養士の活動推進と職能向上につながるよう、薬局管理栄養士研究会が生涯学習の場として有意義に機能し、活用されるべく、我々は大学として、そして管理栄養士教育に携わる者として支援し、連携・協働を継続していく考えである。これらの活動の具現化は、国民の健康維持・増進に貢献する管理栄養士の役割・必要性を再確認できるものであろう。

参考文献

- 1) 厚生労働省 (2020) 『令和2年度 栄養ケア活動支援整備事業の公示について』
(https://www.mhlw.go.jp/sft/newpage_09324.html) (2022年1月1日)
- 2) 堀由美子・内田博之・清水純・君羅好史・小口淳美・真野博 (2021) 「保険薬局・ドラッグストアに勤務する管理栄養士・栄養士の配置状況と就業の実態」『栄養学雑誌』79(4), 242-252.
- 3) 厚生労働省 医薬・生活衛生局総務課 (2017) 『地域包括ケアシステムにおける薬剤師・薬局の役割, 第128回市町村職員を対象とするセミナー資料 (2017年7月7日)』
- 4) 厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会 次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会 (2017) 『健康日本21 (第2次) の推進に関する参考資料 (2012年7月)』
- 5) 日本栄養士会 (2020) 「全国の栄養ケア・ステーション」
(<https://www.dietitian.or.jp/carestation/search/>) (2020年12月29日)
- 6) 厚生労働省保険局高齢者総務課 (2017) 『健康情報拠点薬局 (仮称) のあり方に関する検討会, 健康サポート薬局のあり方について (2017年9月24日)』
- 7) これからの地域・職域連携推進の在り方に関する検討会 (2019) 『地域・職域連携推進ガイドライン (2019年9月)』
- 8) 内山貴雄, 小口淳美, 藤田智子ほか 「第15回薬局管理栄養士研究会の活動報告」(2022) 『地域と大学, 地域活動ノート』2, 3-4.
- 9) 日本学術会議 健康・生活科学委員会家政学分科会 (2020) 『提言 健康栄養教育を担う管理栄養士の役割 (2020年7月27日)』